



復刊第109号
題字 吉岡弥生

年頭に当たってのご挨拶

会長 山崎 倫子

皆様のお健やかに新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。毎年のことながら月日のたつのが早いのには驚かされます。本会も理事各位、会員諸姉のご協力とお励ましによってこの一年順調に過ごすことができましたことを深く感謝申し上げます。

この一年間、私たちは会員増強に特に力を注いでまいりました。日本女医学会を知っていただくための「しおり」を作成、全国の女医一万余名にお送りしたことはご承知の通りです。本会は昭和五十年には約四千六百名の会員数を誇っておりましたが、その数は年々減少し、昨年三月には二、七二一名に至りました。第三十二回総会が大阪で開かれますことから、関西地方の未加入女医約一千名に再度入会のお誘いと、前述の「しおり」を送らせていただきました。在阪の大原、野呂両理事をはじめ、

四月以降二百一名の入会がありました。一方では自然退会——三年間会費滞納の場合退会とする細則あり——が増え、絶体数がなかなか増えないのが現状で、きびしいジレンマに立たされております。どうぞお忘れなく、会費をお納め下さいませよう、また自然退会になった方も改めて復活ご入会下さいませよう、この場を借りてお願い申し上げます。十一月末現在の会員数は、二千八百七十五名——百五十四名増——に達し、会員の出身校も七十一校にまで及んでおります。

素暗しい先輩先賢により創立され、営々として築き上げられた女医学会、国内的にも国際的にも、大きく貢献するとともに、プロフェッショナルとしての女医の基盤を作り、その活躍を育て、支えてきた先輩諸姉に対しても、自信をもって次の世代に引き継いでゆかなければならないと考えます。皆様の一層のご後援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

さて、恒例の学術講演研修会は去る十月十一日、京大・井村裕夫教授、東京女子医大・平野京子教授の二人をお迎えして、新宿センチュリーホテルで開かれました。遠くは青森、福岡からのご参加もあり、たいへん盛会でございました。

学術部は先般のアンケート回答を基礎にして、かつまた女医のポテンシャルを生かした新しい形式でワークショップを計画しています。第一回は加齢と老化——老人の疾患、栄

もくじ

年頭に当たってのご挨拶	山崎 倫子 (1)
各都道府県	
渉外部報告	佐野アヤ子 (2)
学術部	藤井 儔子 (2)
第九回学術講演研修会開催 皮膚疾患におけるアレルギー学的諸問題(講演要旨)	平野 京子 (3)
支部だより	
長野支部より(長野支部)	甘利 貞子 (4)
研修会を開く(愛知支部)	森川みどり (4)
広島支部会について(広島支部)	佐藤千代子 (4)
お薄を戴いた支部会(杉並支部)	宗像 壽子 (5)
東京都支部連合会だより	桂 敦子 (5)
東京都支部連合会だより	宮川美智子 (5)
学術研究助成者の研究経過報告	
網膜可溶性抗原の特性	原田 景子 (6)
サーキュラー・レターNo.82	藤井 儔子 (8)
私の大学/東京女子医科大学	齊藤加代子 (9)
忙中閑/ボルチモアに魅せられて	稲生 襄 (7)
第20回国際女医学会参加のご案内	
第32回日本女医学会定時総会のご案内	
理事会議事録	
常任理事会議事録	
会員動静	
会員の消息	
編集後記	

養、他——を中心に実施の予定です。ご期待ください。

渉外部はNGO(民間)婦人団体のひとつとして、老人医療、福祉、税制、教育、人権等さまざまな問題について婦人の立場から学習し、提言助成、要望書提出など社会的役割を果たしつつあります。

女医の実態調査は着々と進行中ですが、次には嬉しいニュースをお伝えします。WHO(世界保健機関)の特定専門分野でのアドバイザー候補とし

Chromatography conditions

Sample : Cooked grunt solution
Column : Toyosoda G3000 SW 7.5mmIDx600mm
Solvent : 0.1M pH7.5 phosphate buffer
Flow rate : 1ml/min
Detection : UV 225nm
Range : 0.02ABS
Charge volume : 10μl

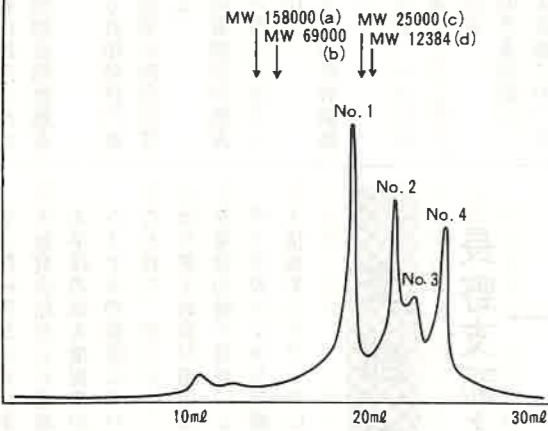


Fig. High-performance liquid chromatogram of cooked grunt solution.

Arrows indicate molecular weight, aldolase (a), bovine serum albumin (b), α-chymotrypsinogen (c) and cytochrome-c type III (d).

アレルギー反応は現在、Coombs & Gell の分類に基づき一般にI-VI型に分類され、臨床像との関係がかなりはつきりしてまいりました。

I型反応における現在の研究の主流は、(1) IgE が結合する好塩基球や肥満細胞の Receptor (受容体) に関する研究、(2) 抗原抗体反応後に引き起こされる細胞内の生化学的変化、アレルギーに結びつく chemical mediator (化学伝達物質) とその代謝としてのアラキドン酸カスケードとプロスタグランディンやロイコトリエンの研究、(3) 抗原の解析などです。

吉岡弥生賞受賞者講演も昨年度から、受賞時の研究の、その後の発展を中心としたお話しをいたさうと方針を改めました。先生方の長い積み上げの基礎的研究成果あるいは、臨床応用の成果を伺えることは、書かれたものを読むだけでは得られない知識となつて役立つのではないかと考えます。

このようにアレルギー性接触皮膚炎や薬疹をひきおこす物質は比較的簡単な分子構造をもち、免疫学的にハプテンとしての性格をもっている低分子物質で、抗原性を得るためには生体内の carrier protein と呼ばれる高分子蛋白質と結合する必要があります。

渉外部報告

国際婦人年日本大会連絡会

国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会全体会議が、九月から四回にわたって開かれ、その各回に出席した(九月八日、二十五日、十月六日、二十日)。

渉外部 佐野アヤ子

各部だより

学術部

第九回学術講演研修会開催

学術部 藤井 儔子

学術部では、去る十月十一日、第九回学術講演研修会を開催しました。昭和六十一年度の学術講演研修会のテーマと特別講演者の選択に当たっては、新しい領域について、しかも、臨床各分野の診療にあたって、すぐに会員に役立つもの……という点を基本としました。

井村教授は昭和二十九年三月京都大学医学部を卒業、米留学、神戸大学教授を経て昭和五十二年四月から京大へもどられました。内分泌学の領域で基礎-臨床を結びつけられた研究の第一線にあり、その研究は、すぐに診断-治療の進歩に結びつくものです。

吉岡弥生賞受賞者講演も昨年度から、受賞時の研究の、その後の発展を中心としたお話しをいたさうと方針を改めました。先生方の長い積み上げの基礎的研究成果あるいは、臨床応用の成果を伺えることは、書かれたものを読むだけでは得られない知識となつて役立つのではないかと考えます。

このようにアレルギー性接触皮膚炎や薬疹をひきおこす物質は比較的簡単な分子構造をもち、免疫学的にハプテンとしての性格をもっている低分子物質で、抗原性を得るためには生体内の carrier protein と呼ばれる高分子蛋白質と結合する必要があります。

学術部 藤井 儔子

学術部 藤井 儔子

第32回日本女医学会定時総会のご案内
5月24日(日)
評議員会 午前11時~12時(TWIN21 MIDタワー20F)
総会 午後1時~3時(MIDシアター)
講演 午後3時30分~4時30分 大阪大学名誉教授 藤野恒三郎先生
懇親会 午後5時30分~7時30分(ホテル・ニューオータキ二大阪)
費用 総会登録 三千元 懇親会 一万五千元
5月23日(土) ツアー
A 京都方面 午後1時京都駅集合。泉涌寺(医聖堂)、南禅寺、西陣会館(きものショー)、京料理、大阪。
B 奈良方面 午前11時近鉄西大寺駅集合。唐招提寺、薬師寺、法華寺、平安宮跡、菊水にて夕食。大阪。
C 大阪万博記念公園 午後1時新大阪駅集合。国立民族学博物館、日本庭園、適塾。大阪市内で夕食。

かつて、アレルギー学会のシンボルマークに象の絵が用いられた事がありました。これは昔話に盲人たちが象の耳や鼻や足をなぞって、おのおの象とはこういうものだと言ひ合ひ、全体像がわからないという意味でした。ところが一九七〇年以降、免疫学が急速な発展を遂げ、それに伴いアレルギーの概念もしだいに解明されるようになり、私は七年ほど前に皮膚を場とする炎症や免疫反応を検査する目的で、皮膚遊出細胞の免疫学的検査のテーマのもとに、skin window test, skin vesicle test を用ひまして、皮膚アレルギー疾患の各「type」による遊出細胞の経時的変動や、主要皮膚疾患における「T cell」の比や vesident Mφ の貪食能などにつき実験的研究を致しまして、日本女医学会吉岡弥生賞を受賞させていただきました。免疫学の進歩は速く今回はその後の私どもの手がけた二、三の臨床研究を主としてお話ししてゆきたいと思ひます。

このようにアレルギー性接触皮膚炎や薬疹をひきおこす物質は比較的簡単な分子構造をもち、免疫学的にハプテンとしての性格をもっている低分子物質で、抗原性を得るためには生体内の carrier protein と呼ばれる高分子蛋白質と結合する必要があります。

のような要望書が各省に提出された。一、中曾根康弘婦人問題企画推進本部長宛
女性有権者に対する首相発言の真意を明らかにする要望（内容はすでに報道されている）。
二、岡本道雄臨時教育審議会会長宛 教育改革についての要望。
三、平井卓志労働大臣宛 男女平等を促進するために労働条件を改善する要望
四、宮沢喜一大蔵大臣宛 税制改革に対する要望
五、斎藤十朗厚生大臣宛 老人保健法改正に関する要望
*九月二十五日の全体会議において日本女子薬剤師会が正式に加盟されて、参加団体は五十一団体となった。

○第四十一回国連総会政府代表伊東すみ子氏の歓迎会に日本女医会より山崎会長とともに出席(10・3)。○人権フォーラム一九八六年の会に出席(11・21)次の四項目が討議された。
①人種差別撤廃条約の批准、②拷問条約の批准、③外国人登録法、④売買春問題
○国際連合加盟三十周年の記念式典が、皇太子殿下、美智子妃殿下をお迎えして九段会館ホールにおいて開催された。
夜は外務省でレセプションが行なわれ盛会であった(11・28)。
○ESCAP地域婦人情報ネットワーク・セミナーについて

支部だより

十二月一日から五日まで、国立婦人教育会館において開催。アジア太平洋の婦人情報ネットワーク・システムの発展について討議が行なわれた。翌六日は、霞ヶ関情報センターおよび市川房枝記念会館を見学の後、英語によるフリー・ディスカッションで婦人問題、婦人情報ネットワークについて懇談

長野支部より

三十年ぶりに信州へ帰郷してみます、もはや知る人もわずかとなり、お名前も存じ上げぬ若い方々ばかりで、まさに浦島太郎、故郷へ帰るの感であります。そのうえ、前会長、星野礼子先生からは何ら引き継ぎ事務等のないまま、先生がご他界遊ばされたので仕方なく、ただただ荏苒日を通しておりました。しかし支部助成金も二分貯えられたので一応それに基づいて、十月十日、支部総会を長野駅前ロイヤルホテルで開催いたしました。

至誠会の先輩方はすでに退会されており、他の会員も未知の方々ばかりでありましたので開催も危ぶまれる状態でありましたが、ようやく私も含めて六人、それにオブザーバーとして

会が行なわれ、山崎日本女医会長の歓迎の挨拶につき、世話人大羽綾子氏により、当会の活動について説明がなされた。私は当日の司会をつとめ、盛会に終了した。



研修会を開く

十月四日(土)、愛知県支部の定例学術講演会を社保研修会と併せて開催した。

社保研修会は愛知県の社保審査委員二名、国保審査委員二名、社保指導委員一名(いずれも女医会会員)の五名を講師として、保険診療における問題点および注意事項の解説ののち、医師会の指導講習会とは異なった、お互い会員同志の気安い雰囲気の中で活発な質疑応答が行なわれ研修会を終えた。

引き続き学術講演会に移り、講師として東京女子医大衛生学教授石津澄子先生の「生活の中の中毒学」のお話を伺った。

昨今の生活環境の多様化に伴い、いろいろの生活用品による中毒事故が多発している現状に対応して、九月中旬、新しく筑波と大阪に中毒センターが設置された。私どもの日常診療においても、吐瀉の適切な判断が要求される大切な問題であり、時

事はその先生のご意見の体現に外ならぬと思うのであります。そして、まずその地域の全女医の親睦を計るべきと考えはしておりますが、現実には総会すら開催困難の現況では、いかにいたしたものでか、己れの無力にただ頭を抱えるばかり

でござります。 広く他県の会員の方のお智恵を拝借したいと思つたのでございます。(出席者名/安藤暉子、岡野照美、黒沢安子、越いハ、酒井千春、甘利貞子。至誠会より市辺千代、中島まき)。

森川みどり 佐藤千代子

広島支部会について

昭和六十一年十一月二十四日(月)、広島医師会館で日本女医会広島支部会が開かれました。それまでに多田深雪先生をはじめ諸先生方のご努力により、準備委員会が何度も開かれ、それぞれの思い、それぞれの考え、等慎重に討議されました。当日は本部より山崎会長もご出席くださいました。

まず、多田深雪先生より経過報告があり、青木豊子先生が議長に選出され、ついで会則も決まりました。

- 会則
- 一、名称 日本女医会広島支部
 - 一、所在 支部長宅に置く
 - 一、目的 女医相互の啓発と親睦を図る
 - 一、役員 支部長一名(本部評議員)、副支部長二名(本部評議員)、員一名、監事一名
 - 一、任期 三年間(ただし再任を妨げず)
 - 一、会議 年一回(ただし必要ある時は臨時会議を開く事を得)
 - 一、会費 本部八千円。支部二千円
- 右会則は昭和六十一年十一月二十四日より施行する。
なお、今回役員任期は日本女医会役員に準ずる(昭和六十三年

五月まで)。 つづいて役員選出では、支部長・増田文枝(本部評議員)、副支部長・高橋龍子、宗像壽子(本部予備評議員)、監事 野村澄江。

以上の諸先生方が決まりました。当日、総務会計は花木美智恵先生でした。新役員の挨拶にひきつづき、日本

お薄を戴いた支部会

杉並支部は、現在会員五十八名。役員は、出身校順に、交替で務めま

す。昭和六十年四月一日より、経験不足の私が、支部長を承わり、気鋭の木下利子先生(会計)、山住美津子先生(庶務)のお力を得て、出

発いたしました。 六十年度は、会員一同、日本女医会東京都支部連合会のご指導の下、科学万博の救護活動に参加させて戴きました。 六十一年度は九月より発足した、日本女医会東京都支部連合会総合学術研究会の、第一回老人問題シンポジウムの様子をお伝えすべく、十月

女医会の山崎会長から日本女医会の目的・事業・国内国外での活躍状況をお話し下さり、幅広くさまざまな問題に一生懸命取り組んでおられる様子がわかりました。

そのあと当日参加された先生方十二名の自己紹介もあり、会食しながら、和やかな雰囲気でした。すでに女医として、いろいろな団体と交流しながらボランティア活動に参加し、思春期の問題、悩める婦人の月曜電話、献血検診等されている話も出ました。これからの会の発展を諸先生方とともに願いながら当日は楽しく会を終えました。

杉並支部 桂 敦子

東京都支部連合会だより

昭和六十一年六月、東京都支部連合会では、「会員の関心がどのような方向にあるか」の意識調査を、各支部長を通じてアンケート形式で行ないましたところ、大別次のようになりま

- ①老人施設(老人ホーム、特養ホーム、ケアマンション、ケアホテル、デイホーム)
- ②老人病院等(老人病院、在宅ケア)
- ③老人の仕事、④難治疾患(終末医療、ホスピス、精薄、不自由者)
- ⑤若年問題(青少年、女性、保育園)
- ⑥国際ボランティア(低開発国医療、帰国子女)
- ⑦財務、⑧その他(親睦、見学、その他)

そこでこれらのテーマ別に各プロジェクトチームを編成して研究し、発表を毎月の役員会で行なうことになり

宮川美智子

- ①救済対策から福祉施策へ(養老院から老人ホームへ)
- ②老人福祉施策(老人保健、医療対策、在宅老人対策)
- ③施設における対策
- ④老人ホームへの収容(養護老人ホーム、特別養護老人ホーム)

また、人生に大切な味付けであることを、心に刻んで散会いたしました。時は九時になんなんとしております。

②措置ということ
 ③老人福祉センター、老人憩の家、老人保養ホーム
 (3)その他の老人ホーム
 軽費老人ホームA型、B型、有料老人ホーム
 (4)老人ホームの設備
 (5)老人ホームの生活
 年間、月間、生活行事について
 (6)老人ホームの費用
 ホームの種類により公的負担(一部自己負担、全額自己負担)以上について説明されました。
 二、老人病院の現状について(大畑先生)
 あらまし次のような説明がなされました。
 急激な高齢化社会の到来により、老人慢性疾患患者も増えております。一般に老人病院とは老人が多く入院している病院と思われがちですが、老人病院という名称は、昭和五十八年二月の老人保健法の成立以前には法令上どこにも存在しなかった言葉であります。
 今日法規上における老人病院とは特別許可、特別許可外の老人病院の総称であります。特別許可病院は、七十歳以上の老人の収容率が六〇%以上の病院で、患者数四十八名に対して医師が一名、病床数に対して看護婦六分の一、補助看護婦八分の一の配置基準を病床単位で満たすものをいいます。一般病院に比して基準が緩和されております。
 配置基準が以上に満たない病院

は特別許可外病院ということになります。
 ただし、七十歳以上の老人の収容率が六〇%以上でも、基準看護病院、結核、精神、伝染および知事が認められた特例の事由のある病院(救急、僻地等に認定された病院)等は除かれ、これらはいかに老人患者が多くても、法規上ではあくまでも、一般病院ということになります。
 昭和五十九年に登録された老人病院は、全国で特別許可病院が六百九、特別許可外病院が五十五で、計六百六十四の病院が指定されました。特別許可病院は毎年五十ほど増えております。
 三、在宅ケアについて(清水先生)
 武蔵野市福祉公社事業内容について話されました。
 (1)有償在宅福祉サービス
 利用の要件
 ①基本サービス(ソーシャルワーカーによる月一回以上の訪問、看護婦による月一回以上の訪問、緊急時対応)
 ②個別サービス(家事援助、介護サービス、食事サービス、その他サービス)
 (内容とその費用の例を挙げて説明)
 (2)福祉資金貸付
 利用要件
 ①貸付の種類、②貸付の利率、③担保物件、④担保の登記、⑤償還、⑥遅延損害金
 以上それぞれについて説明がありました。

現在国会において、老人保健法改正案が問題になっております。この中には老人保健施設、中間施設の構想も折り込まれており、もし可決されれば、昭和六十二年以降に実施されるようになると思われます。施設に入るにしても、在宅してサービスを受けるにしても、より一層の経費負担の増加は避けられないよう、
 *
 老後を考える時、経済的の自立ということは、非常に大切な条件のひとつ、痛感いたします。
 診療に当たって、高齢の患者、またその家族から相談を受けた場合にも、アドバイスをするには誠にもむずかしいものであることを体験いたしました。他人事でなく、今一度「老後を生きて」ということについて深く考えさせられるシンポジウムでした。
 ●学術研究助成研究経過報告
網膜可溶性抗原の特性
 (第三報) アルゴンレーザー光凝固術の網膜可溶性抗原特異抗体への影響
 愛知県厚生連愛北病院眼科部長 原田 景子
 網膜細胞には強い抗原性を有する可溶性の蛋白質(以下S抗原)が存在することが知られている。このS抗原は視細胞の外壁に弱く結合しているため、網膜組織をリン酸緩衝液中で振盪すると容易に溶出されてくる。さらにゲル濾過法や疎水結合クロマトグラフィー等の手段で精製し、Jones系フラットにアジュバンドとともに接種すると強い網膜ぶどう膜炎を惹起することができ、この病理像は片眼の穿孔性眼外傷時に健眼に続発性に起る交感性眼炎の所見と酷似して、免疫学的な見地からも極めて興味ある物質である。一方、糖尿病性網膜症に適応されるアルゴンレーザー光凝固術は、網膜に百個から二千個の加熱凝固創を作り、網膜の酸素要求度を減少させる治療法であるが、この治療では視細胞が破壊されるためにS抗原により個体が感作される可能性があると考えられ、今回ELISA法を利用して抗S抗体価の変化を検討したので報告する。
実験方法
 糖尿病性網膜症六例に光凝固術を行なった。光凝固の条件(凝固回数、

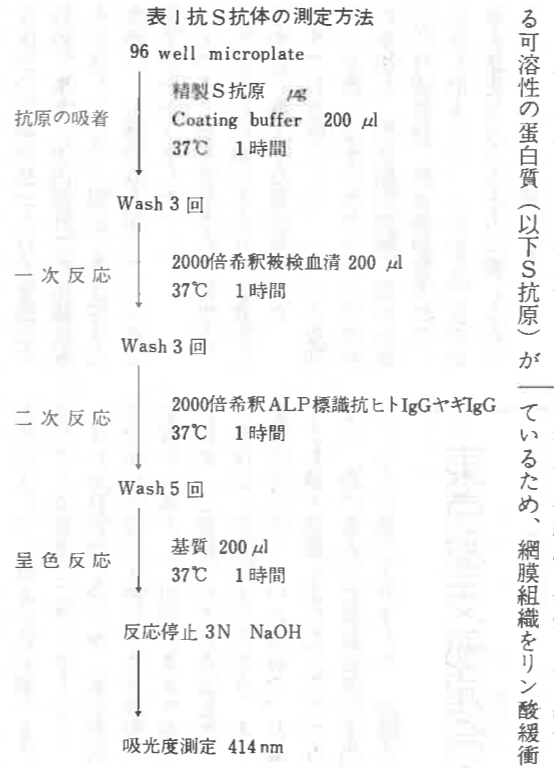


表2 光凝固前後での抗体価

症例	性別	網膜症の程度分類	抗体価(U)	
			光凝固前	光凝固後
1	F	前増殖期	38.0	38.5
2	F	前増殖期	23.2	34.6
3	F	前増殖期	11.2	12.3
4	F	増殖期(末期)	62.8	33.5
5	F	増殖期	24.9	17.2
6	M	不明*	16.0	11.3

*FAG(蛍光眼底撮影の略)で確認していないが、検眼鏡的には前増殖期以上と思われる。

凝固総数、各凝固の間隔)はそれぞれの症例の必要な程度により行なった。術前に第一回目の採血をし、週一回程度の採血をし、測定時までマインス二〇度C凍結保存した。
 抗S抗体価の測定は、ELISA法で行ない表1に過程を示し、最適条件を記入した。これらについては予備実験を行ない検討した。すべての反応を終了し、四一四目でそれぞれの吸光度を測定した。抗体価はS抗原で感作したウサギ血清の原液を千単位(U)として読みとり、各プレート間の補正を行なった。
結果
 正常者の血清中に認められた抗S抗体価は四・四〇〜四・八六Uであった。糖尿病性網膜症の症例では表2に示すように、一一・二〜六二・八Uと高値を示したが、このうち極端に高い値を示した症例四を除外して平均値をとると一八・八八Uであ

った。全症例で光凝固開始一カ月後の抗体価を示したが(表2)、症例四を除外して平均値を取ると一八・九八Uであり、光凝固前よりわずかに上昇していた。しかし症例数としては上昇したもの三例、低下したものは三例であった。抗体価の上昇して行く時期は三週目以後が多いが、六カ月目にやっとならしたものが、三週目に低下するものもあった。
考察
 今回の結果から明確となったのは以下の二点である。第一には、糖尿病性網膜症の症例では、全例とも光凝固術以前にすでに抗体価が正常血清に比し著しく上昇していたことであり、その上昇の程度は網膜症の進行の度合に平行しているようであった点である。第二には、光凝固による抗体価の変動は今回の症例では著明ではなかったことである。全例中抗体価が光凝固後上昇したのは半数

であり、症例四を除く平均値の比較を行なうと、術後わずかに〇・二Uの上昇しか認められなかった。
 これらの点から、糖尿病性網膜症が発症すると、その進行の度合に際して視細胞が破壊され、個体は光凝固術を受ける前にすでにS抗原により感作された状態となっていることが考えられる。これはまた、糖尿病病のコントロール状態の悪い時に起こる虹彩毛様体炎にS抗原が何らかの影響を与えていることを示唆するものかも知れない。
 このようにすでにS抗原により感作された個体では、さらに光凝固を受けても、抗体価が著しく上昇することがないものと推定される。
 しかしながら今回の報告では症例数が少ないため、今後症例を加えて以上の点について検討を要するものと思われる。
 本研究は、名古屋大学医学部附属病院眼科教室室屋忍教授と、愛知県厚生農業協同組合連合会愛北病院伊藤恭平院長のご理解と協力を得たものであることを付記します。



忙中閑

稲生 襄

川崎市姉妹都市ボルチモアとアメリカの旅(市民代表団参加募集)に応募して六十二年九月十九日から三十日まで、二十四名(男女半々)にて、ボルチモア三泊を主に、ロスアンゼルス、ニューヨーク、ワシントン、ニューオーリンズ、サンフランシスコと廻ったがいろいろの職業の年齢も七十四歳から二十歳まで(平均五十四歳)終始夏姿でよく、洋傘も不要、まことに快適な旅であった。ボルチモアはニューヨークとワシントンの中間にあり、女子医大の理事長で名誉学長の吉岡博人先生(八十三歳)が、戦前二年あまり留学しておられた所なので、よく知ってい

このようにすでにS抗原により感作された個体では、さらに光凝固を受けても、抗体価が著しく上昇することがないものと推定される。
 しかしながら今回の報告では症例数が少ないため、今後症例を加えて以上の点について検討を要するものと思われる。
 本研究は、名古屋大学医学部附属病院眼科教室室屋忍教授と、愛知県厚生農業協同組合連合会愛北病院伊藤恭平院長のご理解と協力を得たものであることを付記します。
 ボルチモアでは「水族館」「美術館」「野球観戦(野球王ベブルースの出身地)、ショッピング、船旅等を楽しんだが、何と云っても最終日のホームステイは有意義で勉強になった。
 二名ずつ組んでいろいろの家庭にとめていただいたが、苦心の英語も何のその、あの構えないでざつぱらんの迎え方には、むしろ驚いたくらい。あれなら自分たちでも数人の外人はとめられると、大概の人が自信をもった様子。
 とにかく、六十歳過ぎてホームステイなんて素晴らしいかと皆、大喜びであった。
 ニューヨークでの五番街のそぞろ歩き、お化粧なおしたのできた「自由の女神」を船上から。
 夜、百二階のエンパイアステートビルにも昇った。
 ワシントンは公園都市で、実に美しい街。だが一泊だったのが心残り。ジャズ発祥の地、ニューオーリンズはスペイン、フランス、占領当時の様子が色濃く残っており、日本人はおろか、東洋人を一人も見かけなかったのがよかった。
 夜のミシシッピの船旅は忘れ難い。スーパースターエルビス・プレスリーは、この地で出生したこと。唄に踊りに狂うばかりの地であった。

第20回 国際女医学会会議参加のご案内

会期 一九八七年4月26日(日)〜5月2日(土)
 開催地 イタリア・ソレント
 テーマ 青年期—医学・心理・社会面
 登録業務も旅行者が担当しますので、それぞれの旅行者にお申し込み下さい。(12月末現在参加申し込み者数は74名です)
 日本交通公社 国内海外団体旅行 日本橋支店
 平田グループ Tel 〇三(274)六八一九
 阪急交通社 トラベルプロモート
 中村グループ Tel 〇三(501)五九一三
 *詳細は女医学会事務局へお問合せ下さい。Tel 〇三(498)〇五七一

Circular Letter No.82

国際連絡書記 藤井 儔子

*執行部秘書の交代

7月1日付で執行部秘書となったテレサ・ヘーベルさんが個人的事情で仕事を続けられなくなり、C.バルガさんが後任に決まった。

*役員交代と住所変更

エジプト女医会会長
Dr. Shadia Kadry
6 El-Hadika-Street
Garden City, Cairo
Egypt.
カナダ女医会会長
Dr. Aland Danilkewich
University Hospital
Family Medicine Unit
Saskatoon, Saskatchewan
Canada S7V 0X0

インド国際連絡書記

Dr. Dina Patel
4/4 Rustom Baug
Bombay 400 027
India

イギリス女医会会長

Dr. Beulah Bewly
住所は前と同じ
アメリカ合衆国女医会会長
Dr. Constance M. Battle
住所は前と同じ

マダガスカル国際連絡書記

Dr. J. Andrianjorovo Rarisoa
7, Cité Jardin
Tananarive
Madagascar

国際代議員

Dr. Anne-Maire Schindler
Chemin de la Maulaz
1164 Buchillon, Schweiz

個人会員

Dr. Hélène Demkoff
30 Rue Du Snapeux
4000 Liège

オランダ国際連絡書記住所
Dr. Carolin Roos
Strandvlietlaan 17
1191 CG Ouederkerk/Amstel

*第22回国際女医会会議開催地

No.81のサーキュラーで、すでに案内した第22回国際女医会会議開催国の候補届がないので応募期間を延長する。開催国には無利子ローンとして会議の2年前から開催準備費に相当する額を貸付ける。ローンは会議終了後スイスフランで返却のこと。MWIAの、

“会議計画”に関する書類を請求あり次第送付する。

*委員会ニュース

・ヤングフォーラム

先に案内したように、開催国イタリア女医会がヤングフォーラム参加者の宿泊費を援助する。したがって参加者は登録用紙にヤングフォーラム参加者であることを記入してほしい。委員会に届けのあった出席者は次の各国からである。オーストラリア、ブラジル、カナダ、西ドイツ、フィンランド、インド、韓国、ケニア、ナイジェリア、イギリス。

・広報・宣伝委

Dr. D. ウォードが今回のニューズレター用原稿を募集している。新しいMWIA小冊子を印刷中である。希望者は執行部まで。

・規約

会長の手紙と改訂を要する規約の英語版はすでに各国へ発送してある。各国女医会はこれを十分に検討し、意見があれば12月31日までに提出してほしい。

*国際関係

・WHO

1988年に開催される第41回世界保健総会における専門領域討論会の主題として“万人の健康増進のためのリーダーシップの確立”が組織委によって選ばれた。

・医学国際機構評議会(CIOMS) / WHO

WHOおよびメキシコ保健省との共同で、医学国際機構が招集したアカプルコ・カンファレンスでの主題は、“保健関連領域での人材不均衡”、“争点と展望”であった。40ヵ国代表が健康維持の機会平等をはかるためにすべき点について討論した。適切な健康維持推進は上手な計画と訓練、そして保健に関するあらゆる分野で働く人々を動員することと結論された。したがってこの領域の人材不均衡は健康保持のための障害となる。これに関しカンファレンスでは次のような点を含む可能な解決策を討議した。すなわち、よりよい計画と統合、各国の必要度に対応した卒業生の送り出しを調整、他国からの医師の流入抑制、外国で医学を学んだ人々に対する免許をきびしくする等。

・UNICEF/NGO委

1986年10月13日、ジュネーブにて—Mrs. R. ボナーズ(終身代表)

の提言—UNICEFは国連支部として、数ある非政府団体いずれもがまったく諮問機関としてかわりを持っていない唯一の団体であることを強調したい。現実の問題として、これが意味することは次のような点となる。密接な関連を持つことでNGOSが、UNICEFの活動に非常に影響を与える立場にあることと、反面、UNICEFが、世界各地のNGOSと根底でつながりを持つ利点とがある。

NGOも単一行動より共同で行なう運動の方が、はるかに効果的であることは、もっと協調されるべきである。NGOSはそれぞれの地域の状況に関する知識と専門的分野からの見識をもって、種々の提案や示唆をもち込んだ活動方式を提起すべきである。UNICEFが対象とする多くが婦人と子供たちであることから、MWIAがNGOSの中でUNICEFと公的関係を保つ重要な団体の1つであるべきと考える。

・はじめて地球を馳ける

UNICEFの40周年記念の年に当たり、大きな発展の足跡の1つはわれわれが多くの方で関与したことである。これは将来の子供たちのための種々の計画に必要な経費と社会的実行をもたらすであろう。“はじめて地球を馳ける”は世界的規模で聖火を掲げてのラリーが行なわれることであり、40ヵ国以上を通過するであろう。“戦争における子供達”の発刊は、WHOフォーラムの特別討論の中心であった。“はじめて地球を馳ける”は単なる資金調達の仕事以上の意味をもつ。国際協力と世界平和を掲げるUNICEFの主たる声となるであろう。UNICEFは貴女個人および組織の援助を待っている。集団予防接種キャンペーン運動もNGOSの協力なしには不可能であろう。平和運動もしかり。

*第20回国際女医会会議(ソレント)

会議スケジュールはサーキュラーNo.81と同じため略。

私の大学

東京女子医科大学小児科 斎藤加代子

女医会に所属しておられる多くの先生方が、母校東京女子医科大学の卒業生でいらつしやるので、私のような「ヒヨッコ」が母校を「紹介し上げるのはまことに僭越と存じます。現在の女子医大に勤務する者からみた母校について少し述べさせていたたく事にいたします。この文章を書かせていただくに当たり、本学中央校舎二階の大学史料室を訪ね、吉岡彌生先生の年譜・東京女子医科大学の歩み」を参考にさせていただきました。

本学はわが国最初の女子医育機関として、一九〇〇年十二月に吉岡荒太、彌生先生により東京女医学校として創立、当初四名の生徒で始まり、その後、いく多の困難を乗り越えて、数多くの女医を生み出し、女子教育、医学教育に重要な役割を果たすとともに、今や世界のトップレベルに立つ高水準の診療レベルを誇っております。また、全国各地から集まり、本学で医学教育を受けた女医たちは、再び全国各地で地域医療、学究活動など各方面で、女性として、医者として活躍をしております。そして卒業生の心の底に流れる精神は、母校への誇り、吉岡彌生先生の建学の精神、至誠の心である

と想います。女子医大には常に建設の音が聞かれます。特に近年は一二年に一つというスピードで、校舎または病院の竣工をみています。すなわち一九六五年日本心臓血管研究所、六七年第二病院新館、精神神経科病棟、消化器病・早期癌センター、七〇年中央・北校舎(基礎医学教室)、七一年脳神経センター、七二年佐藤記念館、七四年別館、七五年成人医学センター、七七年白河セミナーハウス、七八年中央病棟、八〇年東病棟、八四年本部棟などです。現在すでに講堂棟の外観もあらわれ、さらに次の構想へと着実に準備がすすめられているようです。この巨大なエネルギーは、吉岡彌生先生の建学の精神と伝統を理事長、学長、病院長などの優れたスタッフが脈々と引き継いでおられるお蔭であると思えます。

現在のそのような母校の発展期に教育を受けた私どもの世代は、優れた教授陣から豊かな内容の医学の基礎と臨床を学ぶことができ、恵まれておりました。常によりよきものをめざして向上し、発展している女子医大に勤務する者として、誇りと自覚、至誠の心を持って、診療、教育、研究に携わって参りたいと考えております。

理事会議事録

日時 昭和61年9月27日
場所 日本女医会会議室
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、野沢、平瀬、福永、藤井、丸山、八木、石川、井上、鶴川、大原、川口、小出、関口、南雲、二村、野中、野呂、橋川、添田、西山、山口

欠席者(敬称略)
橋本、三好、石津、稲生、小暮、野本、藤田、山本
職務報告 明石常任理事
7月25日 日本女医会誌百七号、第二十回国際女医会議参加案内、年金パンフレットを発送
7月26日 常任理事会開催
・群馬支部会へ「生活の中の中毒学」講演のため石津理事、白橋常任理事出席

8月31日〜9月5日 第二十三回国際社会福祉会議
・山崎会長出席
9月5日 学術研修会通知発送
その他
(1)斎藤十朗厚生大臣および畑次郎厚生政務次官より就任の挨拶あり
(2)日本中国友好協会より役員選定の挨拶あり
(3)故宮川ユリ先生ご遺族より香典

の礼状あり
(4)渋谷二丁目祭りに際し祝儀(三千円)を出す
(5)厚生統計協会出版の「昭和六十二年国民衛生の動向」を購入
(6)東京慈恵会医科大学より日本女医の実態調査アンケート資料について書簡あり

(7)山本 杉理事宅全焼(九月十九日)に対し火災見舞(二万円)を送る
連絡事項
一、東京都生活文化局婦人青少年部より「婦人問題解決のための新東京都行動計画—男女の平等と共同参加へのつぎようプラン—」説明会開催について
日時 昭和61年8月27日(水)午後1時30分
場所 東京都飯田橋庁舎十階
二、日中医学交流会の「案内について」日時 昭和61年9月5日(金)午前10時
場所 日本海運倶楽部
三、東京都生活文化局婦人青少年部より昭和六十一年度北海道、東北、関東地区婦人問題推進地域会議の開催について
日時 昭和61年10月29日(水)午前10時
場所 千葉県教育会館

四、共同通信社より「試験管の中の女」ヤンソン由美子訳、定価千六百円(十冊以上注文の場合は、千二百八十円)の販売注文あり
石川理事
七月分、八月分、別紙どおり報告

各部報告

(事業部) 白橋常任理事
・七月二十六日、群馬支部へ「生活の中の中毒学」講演のため白橋先生、石津先生が出張。十月4日、愛知支部にも同様の講演のため出張を予定している。
・「女医の実態および意識調査」のアンケートの仕事は、コンピュータ関係の作業が終わり、現在各項目のデータを集計している。

・九月十九日〜二十三日、愛知県において健康フェスティバルが開催され、愛知支部が「生活の中の中毒学」に関してのパネルを展示、それを当会に寄贈するので、今後生活の中の中毒学に関するパネルを貸し出すこととする。
(広報部) 井上理事
・十月末発行の会誌百八号の校正印刷の仕事を進めている。
(学術部) 藤井常任理事
・十月十一日の講演研修会は、講演会百三名、懇親会五十九名の出席を予定している。
・学位取得者一覧表について別紙のとおり報告あり。

(渉外部) 佐野常任理事
・九月二十五日国際婦人年日本大会全体会に佐野常任理事出席。
(国際女医会) 藤井国際連絡書記
・第二十回国際女医会会議について
(1)現在ソレント会議への出席予

定者は六十名くらいの方が希望している。

(2)一九八四年カナダ・バンクーバー開催以降会員物故者数は四十六名。

(3)五十年継続表彰該当者は八十五名。(昭和十年、十一年卒業者で昭和三十五年以前に入会し、会費完納者)

(4)日本からは、現在ヤングフォーラムとして出席する該当者はいない。

国際女医会規約改正について本部から改正案が届いた時点で検討する。

・イギリスの女医会から「日本の女医の実態について」の問い合わせに対し、集計ができたら回答する。

一、昭和六十二年総会について
日時 昭和62年5月23日(土) 24日(日)
場所 大阪・TWIN21、MIDシアター、ニューオータニ
観光 大阪千里万博あと、国立民族博物館、奈良、その他
二、学術部アンケートについて
学術部で制作したキーワード案にもついで検討し、全会員にアンケートを願う。

を支払う。

(2)国際女医会会長候補について
山崎日本女医会会長を国際女医会会長候補として推薦することを再確認する。

(3)国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョンより講演依頼について
昭和六十二年五月十五日、ホテル・ニューオータニにおいて国際ソロプチミストの総会に事業部を派遣する(石津、白橋、石原)。(4)渉外部よりチャリティ・ディナーショー開催について
開催目的等について渉外部でもう少し検討する。

(5)東京興信所より日本淑女録作成のため当会の名簿購入希望について三万円にて販売する。

報告事項
(1)埼玉支部の予備評議員が欠員であったが、来年三月までには選出するとの返事あり。
(2)十一月二十四日、広島支部会へ山崎会長出席予定。
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、野沢

石原、佐野、白橋、橋本、平瀬、丸山、三好、八木
欠席者(敬称略)
野沢、福永、藤井
庶務報告 明石常任理事
9月27日 理事会開催
10月3日 第四十一回国連総会
政府代表伊藤すみ子氏歓迎会へ山崎会長、佐野常任理事出席
10月4日 愛知支部会へ「生活の中の中毒」講演のため白橋、石原両常任理事と石津、野中両理事出席
10月6日 国連NGO国内委員会に佐野常任理事出席
10月11日 第九回学術研修会をホテル・センチュリーハイアットにて開催(七十七名出席)
10月20日 国連NGO国内委員会に佐野常任理事出席
10月21日 大阪地区の当会未加入者へ入会勧誘状を発送
その他
(1)故沢田房子先生ご遺族より香典の礼状あり
(2)故生井喜久子先生ご遺族より供養の品あり
(3)渋谷2丁目祭礼委員会より祝儀の礼状あり
(4)厚生省主催の新公益法人会計基準説明会に事務局より出席

連絡事項
一、東京都生活文化局婦人青少年部より「'86婦人問題を考える都民会議」開催について
日時
第一会場 昭和六十一年十一月十九日(水)
第二会場 昭和六十一年十二月二日(火)
場所
第一会場 ヤマハホール
第二会場 立川市中央公民館ホール
テーマ
「女と男とマスメディア」
会計報告 丸山常任理事
9月分別紙どおり報告 承認
各部報告 佐野常任理事
(渉外部) エスカップ婦人情報ネットワーク
一、エスカップ婦人情報ネットワークセミナー開催について
日時 昭和61年12月1日〜6日
場所 国立婦人教育会館
種々婦人団体の会合に出席しているが、詳しくは会誌掲載予定。
(広報部) 八木常任理事
・日本女医学会誌百八号を近日発送する。
・次回原稿締め切りは十二月十日ごろ、各部からの寄稿を願う。
(事業部) 石原常任理事
・愛知支部へ石津先生の「生活の中の中毒学」の講演のため出張。今後の講演地として四国と九州を予定している。

・学術研修会、懇親会を昭和六十一年十月十一日行なう。
・ワークショップのアンケート調査を全会員に依頼する。
・ワークショップの開催は、来年二月ごろ、東京女子医科大学談話室を予定している。

一、財団法人「国連婦人の十年」記念財団法人問題総合研究所設立準備委員会より寄付金および賛助会員へのお願いについて
次回理事会で検討。
二、昭和六十三年総会開催について
日時 昭和63年5月22日(日) 第一希望日
昭和63年5月29日(日) 第二希望日
場所 京王プラザホテル(新宿)
報告事項
一、九月二十七日から二十九日の間、鍵のかかっていた事務所に空き巣が、侵入し机の引出し、書庫キャビネット、手提金庫を荒される。被害額三、八五〇円渋谷警察署へ届け出る。
その後の処置としてドアキーの取替と補助キーを付ける。
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、三好

理事会議事録
日時 昭和61年11月22日

場所 日本女医会会議室
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、橋本、平瀬、福永、藤井、三好、八木、石川、石津、稲生、鶴川、川口、小出、関口、二村、野中、野本、橋川、藤田、山本、添田、西山
欠席者(敬称略)
野沢、丸山、井上、大原、小暮、南雲、野呂、山口
庶務報告 明石常任理事
10月25日 常任理事会開催
10月27日 学術部アンケート調査、日本女医学会誌百八号およびルーペングラン年末年始セールパンフレット発送
11月5日 厚生省へ公益法人概況調査および台帳提出
11月18日 エスカップ婦人情報会議準備会に佐野常任理事出席
その他
(1)市川房枝記念会へ維持費一万円支出
連絡事項
一、日中医学協会より日中天然薬物シンポジウム開催について
日時 昭和61年11月4日(火) 11月6日(木)
場所 芝青年会館ホール
二、東京都より「性について考える」シンポジウム開催について
日時 昭和61年11月28日(金)

午後1時30分〜4時30分
場所 安田生命ホール 橋川理事
会計報告 承認
十月分別紙どおり報告
各部報告
(学術部) 藤井常任理事
・第九回学術研修会報告
(1)十月末現在会計報告は、懇親会費用収入三三、五〇〇円、諸経費支出一、二四二、八八〇円、差引九一七、八八〇円である。
(2)特別講演の講演内容は原稿用紙五十五枚にもなるが、会誌に掲載する。
・ワークショップのアンケート調査集計結果について
アンケート発送数は二、七九五通、うち回答数四一一通であり回答率は、一四・七%である。
その中で希望されるワークショップ第一位は、老化と疾患、二位東洋医学と西洋医学との接点、三位自己免疫、四位同数発癌性ウイルスと老人性痴呆の病態である。
(事業部) 白橋常任理事
日本女医の実態調査の集計は、現在七割程度できていて三月までに完成する予定である。
(広報部) 藤田理事
・会誌百八号を十月二十七日発送、次号の企画を検討している。
(渉外部) 佐野常任理事
・エスカップ婦人情報ネットワークセミナー開催について

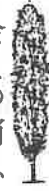
日時 昭和61年12月1日〜6日
場所 国立婦人教育会館
種々婦人団体の会合に出席しているので会誌に掲載する。
(国際女医会) 藤井国際連絡書記
・第二十回国際女医会会議について
(1)国際会議のたびに恒例になった各国よりのお土産の持参をソレント会議へも願うとの依頼あり。品物は何かとの問い合わせあり。
(2)一九八四年カナダ・バンクーバー開催以降会員物故者数は四十六名。
(3)五十年継続会員表彰該当者は八十二名。
・WHO専門職別委員決定通知あり
大森安恵(東女医内)
平数淳子(群馬)

二、難民を助ける会より運営資金協力依頼について
会からは寄付できない。
(3)東京都支部連合会主催の観劇会のお誘いについて
とき 昭和62年1月18日(日) 午前十一時
ところ 歌舞伎座
観劇料 一万一千円
(4)事務職員冬期ボーナスについて
二・七ヵ月支給 以上
副会長(庶務担当) 久保田
庶務部 明石、野沢

役員(敬称略)
群馬支部 丸茂昌子
予備評議員(敬称略)
群馬支部 角田智恵子
長野支部 岡野照美
入会会員(敬称略)
北海道支部 工藤たけあ
青森支部 梅原文代
群馬支部 川辺志津子 山本節子
埼玉支部 国松ふみ 畑 靖子
深井登起子 田中蘭子
栃木支部 新井寧子 岡田真由美
千葉支部 熊谷貴代 野口和子
足立支部 小泉春子
大田支部 堀内知恵子 山本由子
新宿支部 溝部達子
杉並支部 上田由紀子
世田谷支部 及川富美子
千代田支部 岡田玲子

灰田美知子
三谷洋子
小島美由紀
野々田宣子
大滝隆子 石田裕子
山田利津子
山梨支部 熱海佐保子
静岡支部 日比野順子
愛知支部 鷲野洋子
長野支部 畑山喜美枝
富山支部 藤巻篤子
福井支部 山崎紀美
滋賀支部 瀬川登資子
大阪1支部 足立六花子
大阪2支部 大西洋子 寺本洋子
大阪3支部 日置安子
大阪4支部 沓脱タケ子
大阪5支部 川田喜代子
大阪6支部 南出 正 松永由野
早原千鶴 玉田信子
中川史子 高田高子
山本辰子 吉田敏子
大西弥生子
望月喜久子
藤本シズ子
田辺富規枝
高畑豊子 中村順子
吉田晴子
岡島明美 小倉恭子
増田とし
岡崎国恵
大野あや 重松純子
野田良子 吉田恭子
沢田允子 寺嶋幸恵
有地延子 南 路子
大月則子 栄栄祥子

会員の消息



*及川富美子(世田谷支部)

東京女子医専・昭和七年卒

レコード会社より艶歌歌手としてデビュー。それが及川先生のことであつた。ご自身の病苦・障害を克服されて、思いがけない分野にも進出された。

年齢を感じない綺麗な声で唄われる「都々逸恋唄」雨の下町おんな橋には明治を感じ、またすでにこの歌が老人の慰めとなり、励ましにもなっていると聞いている。「もしレコードが売れて利益が得られたら、半身不随者のために全部役立たせたい」という先生の祈りがかかりますように。

*矢部登美子(群馬支部)

昭和三十一年九月、初代理事長・近藤吉次郎先生(義兄、整形外科医)の土地、建物、備品等の寄付により創立、矢部先生ご夫妻の協力により、肢体不自由児施設「両毛整肢療護園」が収容児定員三十名で開園され、三十二年には六十名、三十五年には敷地内に病院と隣接して桐生市立第一養護学校を誘致。その後、国庫補助金による病棟の増築、養護学校に高等部設置、五十八年四月より登美子先生は園長に就任。開設より三十年経った昭和六十二年四月には、すでに成人に達した重度の障害者用の六十床を擁する療護棟が完成するという。

先生は施設の医師として、お母さんとして「子供たちを相手に楽しく過ごしています」という毎日である。

群馬支部 内堀俊子
埼玉支部 篠崎香織 松島裕子
千葉支部 星野敬子
大田支部 田口晶子
品川支部 秋元奈保子
新宿支部 菊池 睦
世田谷支部 牧野真理子
文京支部 中田智愛子
目黒支部 三谷洋子
東女医学内支部 渡辺喜代子
唐沢久美子
芦沢 泉
都下東支部 松山真記子
都下西支部 野々村弥生
神奈川支部 平林容子 古橋悦子
山梨支部 渡辺久美子
岐阜支部 渡辺孝子
三重支部 鷲尾節子
奈良支部 久須美房子
大阪3支部 石原潤子
大阪9支部 門田今日子
和歌山支部 上田起世子
岡山支部 石黒真美
広島支部 仙波真弓
福岡支部 野村和代
熊本支部 山口裕代 柳瀬加代子
物故者会員(敬称略)
山形支部 箭野ゆき
埼玉支部 宮川マリ
茨城支部 延島秀子
大田支部 柴田光子 池田ヤイ
練馬支部 竹内ススム
愛知支部 沢田房子
大阪4支部 前田きぬえ
福岡支部 生井喜久子

住所不明の会員

左記の方々が、転居先不明のため郵便物が返戻されてまいりますので、おわかりになる方がおられましたらご一報いただけますと幸甚です。
北海道支部 井本祥子・埜なぎさ
群馬支部 三浦美智子/千葉支部
若林優子/荒川支部 伊藤けい子・小川智子/大田支部 矢部由美/渋谷支部 木村敬子/新宿支部 小倉美智子/中野支部 福井尚見/文京支部 坂井聡子・松平喜美子/港支部 佐川智子/目黒支部 細野久美子/都下東支部

原中瑠璃子/岡田千穂子・黒沢サト子/神奈川支部 有働尚子・岡田由美子・常磐ひとみ・常磐由美子/山梨支部 山田佳代子/愛知支部 加藤由美・鈴木ありさ/新潟支部 高橋ひろみ・渡辺繁子/富山支部 田辺千賀子/三重支部 野呂たじ・安井文子/奈良支部 小長谷陽子・佐伯紀子/大阪6支部 元 フミ/兵庫支部 原 美津子/岡山支部 尾本佳世/広島支部 金滝育子/島根支部 山東悦子・板東生子/山口支部 樋口裕子・本田千穂/大分支部 市場康子
以上四十名

集記 編後



歳月のたつのは早いもので、今年も師走を迎えてしまった。一年があつという間に過ぎてしまうのは、天下泰平の証拠であるのかもしれない。しかし、一旦、外に目を向けてみると、決して世の中泰平とは言えない。つい最近では、伊豆大島の三原山が二百九年ぶりに火山活動を開始し、火柱をあげて大噴火した。一人余の島民は長い間、不自由な避難所での生活を強いられた。
十一月の連休明けには、三菱銀行有楽町支店で現金輸送車が襲われ、三億三千万円もの大金が強奪されて

昭和62年1月20日 印刷
昭和62年1月25日 発行
編集人 八 木 貞 子
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
TEL (498) 〇五七二
TEL (815) 六六六一
制作 株式会社 金剛出版